

# OMM JAPAN 2023 イベントディレクターレポート

2014年に「OMM JAPAN」を東伊豆で開催してから10回目・10周年という大きな節目となる大会を無事に終えることができました。

まず、このイベントに参加してくれた1600名のコンペティター、そしてその挑戦の舞台を作り上げ、当日の運営を支えてくれた80名のスタッフ・ボランティア、その他イベントに関わって頂いた全ての関係者の皆様に心からの感謝を贈ります。

OMM JAPANは現在、日本最大規模の山岳アドベンチャーレースにまで成長しましたが、そのスピリッツのルーツは、本国英国で1968年に生まれた小さな草レースであるTHE OMM（当時KIMM）にあります。

私たち日本もその精神を引き継ぎ、2014年の初開催からこの10周年大会まで、一貫してその年ごとの反省や課題を運営スタッフだけではなく参加者にも共有しながら、まさに草の根を広げるように共に成長してきました。これが、今の他に類を見ない特別な場としてのOMM JAPANを作り上げていると確信しています。

競技者も運営者もこの2日間を単なる競技・レースではなく、その場に集まったすべての参加者が自分のスキルをテストするために「 OWNリスクの精神を持って、大自然にチャレンジする」という共通の考えをもって参加することが、ここから先のOMM JAPANというイベントのさらなる成長と進化に欠かせない要素だと考えています。

10周年という大きな節目の大会を無事に終えることができた安堵感を持ちつつも、次の20年に向かって気持ちを新たにこの反省と課題を糧に進んで行きたいと思います。

## 評価・課題・反省

### 1. 開催地

今年の開催地となった長野県小海町周辺山域は2017年に開催した野辺山大会のエリアのすぐとなりでもあり、当時から地形や植生、またイベントセンター、キャンプサイトの位置関係もOMMの開催エリアとして非常に適しているのではと注目していました。

それから6年という期間を経て、満を持してこのエリアで、今年10周年大会を開催することができましたが、実際にこの山域の美しい森と苔、凜とした空気、そしてところどころで見れる壮大な景色に多くの参加者が感動を覚えたのではないかと思います。

OMMというレースの特性上、一般的な登山エリアをなるべく使わないようなエリアとコース設定をしていますが、これが参加者にとってはOMMではないと入り込めない深い自然の懐を感じてもらえる貴重な機会にもなっていると思います。

今後もOMM JAPANでの開催エリアは、地域の特性や周辺環境等もしっかりと確認しながらチャレンジングかつ特別な自然体験の場としてもふさわしい場所を選定していきたいと思っています。

## 2. イベントセンター

今年のイベントセンターもスキー場施設内だったことで電源の確保や暖の関係などの設備が整っていたので設営やオペレーションは非常にスムーズに進められる事ができました。

また10周年という節目の年として、前夜祭でのトークショーや展示、記念グッズ等の販売も行いましたが、多くの参加者の皆さんに概ね楽しんでいただけたように感じています。

来年以降もイベントセンターでの前夜祭や2日目FINISH後にはOMM JAPANらしい一体感を感じられる雰囲気作りにこだわっていきたいと思います。

DAY1朝のトイレが非常に混雑してしまい、多くの参加者の皆さんにスタート前の混乱を誘発させてました。例年スキー場施設の場合は常設の水栓トイレで足りていたため今年も問題ないと判断しましたが考えが甘く大きな反省点となりました。来年以降の改善課題としたいと思いません。

## 3. オーバーナイトキャンプ

・今年も美しい森に囲まれたキャンプ場を一部貸し切り、オーバーナイトキャンプサイトを作り込みました。レイアウト、導線、仮設トイレの数や給水オペレーションなどこれまで培ってきた経験を活かしながらスムーズに作り込むことができ、当日も大きな混乱も見られず概ね問題なく運営することができました。

当日はかなりの冷え込みとなりましたが、参加者からも自然の中に無数に灯るテントの明かりを楽しみながらOMMらしいキャンプを楽しめたという声をたくさん聞くことができました。

## 4. スタート・フィニッシュ

今年のスタート、フィニッシュのレイアウトは十分にプランニングできていたこともありDA1、DA2の両日ともに良い雰囲気と導線もスムーズに作れたと思います。

昨年の大きな反省点となった2日目Bコース上位数チームのFINISH時刻にゴールゲートやフラッグ等の装飾が間に合わなかった失敗を、今年は設営チームのタイムスケジュールを見直すことでうまく改善することができましたが、一部設営チームスタッフの負担が大幅に増えてしまいました。この点については、他チームとの連携を再考するなど来年以降も課題として引き続き改善していきたいと思いません。

## 5. マーシャル・スタッフ・ボランティア

今年は過去最大の80名を超えるスタッフ・ボランティアが集まり、同じく過去最大の1600名という参加者のチャレンジを支えることができました。

年々継続参加してくれるボランティアの皆さんが増えていることで、イベント運営もスムーズかつより細かな部分のクオリティもあげられています。

また、数年前から各チームの次世代の人材育成も各ディレクターが丁寧にすすめていることが、近年のイベントの成長の大きな要因になってきていると感じています。

ここから20年目を目指すOMM JAPANにとって、次世代のスタッフの成長は欠かせない重要な要素だと考えていますので引き続き各ディレクターとともに育成に力を注ぎたいと思います。

またOMM JAPANというイベント運営に関わる機会が、そこに関わるスタッフ・ボランティアにとっても大きな経験となり、自身の仕事やライフワークにも良い刺激となるようなチームづくりを引き続き実践していきたいと思います。

## THANK YOU FOR ALL

OMM JAPAN 2023 KITAYATSUGATAKEをともに作り上げてくれた仲間感謝を贈ります。

Communications Director Jeff Jensen (株式会社ノマディクス)  
渉外マネージャー 我部乱 (有限会社エクストレモ)  
Event HeadQuarter 野村治子 (株式会社ノマディクス)  
Technical Director 小泉成行 (O-Support)、坂野翔哉 (坂野山遊地図企画)  
Course Planner 谷川友太  
安全管理マネージャー 村越真 (NPO 法人 M-nop)、早川秀人  
スタッフ・ボランティアとして参加してくれた皆様  
長野県小海町 関係者の皆様

**ALL Competitors** OMM JAPAN 2023に参加してくれたすべての皆様

Writing by  
OMM JAPAN EventDirector 小峯秀行